

令和6年度 信愛会本部 事業報告書

① 理事・評議員会等の開催内容

令和 6年 6月 ①法人監査(監事報告及び顧問公認会計士所見)

②理事・評議員会:決算事業報告・諸規程整備

令和 7年 3月 ①理事・評議員会:補正予算・次年度予算・事業計画・諸規程整備

② 主な活動報告

- 上半期 ※ 基本的な感染予防継続・面会は予約制・研修行事等の企画は緩和
※ 新人オリエンテーションおよび既存職員への適時方針説明
※ 特養入所ご家族説明会(現況報告・介護保険改正等)
※ 6月に新型コロナクラスター発生(保健所報告・施設内感染まん延防止策)
※ 特養入所判定会議(施設長・相談職・第三者委)
※ 決算報告・事業報告・監事監査・顧問公認会計士所見(法人本部)
※ 法人資産変更登記申請(福岡法務局)
※ 公益法人等収支計算書類提出(香椎税務署)
※ 社会福祉法人現況報告データ公表(福岡県庁)
※ 介護サービス公表システム情報更新(福岡県庁)
※ 介護サービス事業所調査票提出(厚生労働省)
※ WAM返済条件変更継続申請(福祉医療機構へ適時報告)
※ 信愛会ホームページ情報公開更新(経営協公開システム等も同時更新)
※ 法人役員賠償責任保険更新(FFGほけん・損保ジャパン)
認知症の人と家族の会福岡支部総会にて食事に関する講演(管理栄養士)
介護労働安定センターの実務者研修での福祉講話(理事長)
協力病院管理者と医療連携関連対談(篠栗病院事務部長/理事長・事務長・介保主任)
地域の中学生との音楽交流(篠栗北中学・篠栗探求88タイム)
施設従事者相互保険更新(職員互助会・社会福祉振興試験センター)
ソウェルクラブへの入退・記念品等各種申請(職員互助会・福利厚生センター)
退職共済職員名簿提出(福祉医療機構)
介護職等処遇改善関連計画報告提出(福岡県庁及び広域連合等)
軽自動車免税申請(篠栗町役場)
車両一括フリート保険更新(篠栗モーター・損保ジャパン)
職員健康診断(三野原病院)
配置医師等電子報告(福岡県庁)
給食施設定期検査(粕屋保健所)
施設建物設備定期点検報告(委託業者より所轄団体へ報告)
- 下半期 ※ 福祉功労者表彰(県福祉大会にて、柳理事長・池田労務主任受賞)
※ 特養入所判定会議(施設長・相談職・第三者委)
※ 物価高騰支援金:入所系・通所系の申請(福岡県庁)
※ 事業継続BCP規程更新・防犯マニュアル更新(全職員へ周知)
※ 虐待ハラスメント防止資料(全職員へ周知)
※ ユニ・チャーム排泄ケアアドバイザー講習(特養排泄委員会/主任相談員等)
※ 赤い羽根共同募金/歳末募金(職員互助会から篠栗町社協へ)
※ インフルエンザ予防接種(利用者:篠栗病院 / 職員:やまのクリニック)
※ 給食委託業者:昭和イーティングとのヒアリング(施設管理栄養士と双方管理職)
介護労働安定センターの実務者研修での求人講話(事務長)

特殊浴槽機器買替時シャワードーム式を選択導入（エア・ウォーター社）
 協力病院管理者との面談（篠栗病院事務部長・看護部長/理事長・事務長・主任ケアマネ）
 協力医療機関協定書締結（篠栗病院事務部長通じ、事務長作成書式を双方理事長承諾）
 協力歯科医院協定書更新（井上歯科医院：口腔ケアに関する追記承諾）
 12月にインフルエンザ流行（県警報時・感染まん延防止策継続）
 介護DX試供機器レンタル（県社協担当部署通じ専門業者対応）
 デイサービスセンター：オアシス篠栗の行政財産使用許可更新（篠栗町役場）
 法人一括財産包括火災保険更新（福祉共済会・あいおい損保）
 施設賠償保険更新（E保険プラン・あいおい損保）
 福岡県「子育て応援宣言企業」「エコ事業所」登録継続（認定証等掲示）
 福岡県「飲酒運転撲滅宣言企業」登録継続（ポスター等掲示）

③ 福祉医療機構分の借入金償還について（返済条件変更継続申請中：介護事業利益率低下につき）

平成22年時：篠栗荘移転改築時分（当期元金償還 3,753,000円 利息支出 3,494,932円）

④ 情報公開・指定更新・地域貢献・人材育成への対応

- i パンフレットや各種広告に加え、ホームページでの情報公開、理念方針・個人情報保護・苦情解決体制・定款・財務諸表・事業計画報告・監査報告・役員一覧・組織図・サービス説明書等のデータ適時更新
- ii 介護保険事業所（特養篠栗荘・併設ショートステイ・デイサービスセンター・ケアプランセンター）は、「介護サービス情報公表制度」に基づく公表データ更新（平成18年度より毎年）
- iii 介護保険事業所（特養篠栗荘・併設ショートステイ・デイサービスセンター・ケアプランセンター）の指定更新（令和2年より6年間有効・次期更新）

※ 地域社会貢献活動について



【地域の社会福祉法人と連携等：篠栗町社協の福祉講座等に主任相談員や管理栄養士が出向、県社協ふくおかライフレスキュー粕屋連絡会に参加、旧施設をリユース品倉庫とし無償提供】共同募金/歳末募金（職員互助会からと自販機売上一部）・非常食買替時にフードバンクへ・飲酒運転撲滅宣言・エコ事業所登録等々

※ 福祉人材育成について



【信頼と共感のもてる職場づくりの方針を掲げ、新入職員へ初期教育・既存職へ待遇改善・規定明示・WEB研修等への参加促進や資料配布・資格取得支援】小中学生へ福祉教育（感染状況にて限定）・教職課程大学生の介護体験・専門学生の実習受入・子育て応援宣言登録・応急手当普及員配置・喀痰吸引研修・専門職研修・協力歯科の口腔ケア指導・消防や防災業者による定期点検訓練等



《 法人事務部門報告 》

“ 信頼と共感の持てる職場づくりに取り組みつつ、適正な情報公開・財務規律に努めました”

【信頼と共感の持てる職場づくり】 これまで数年間、人材育成や待遇改善、業務省力化を図ってきましたが、
新型コロナ禍以降、継続的な感染対策や人手不足、物価高騰、養護措置施設の閉園等々厳しい状況を経験しました。現在は、既存の介護保険事業に集中して、「小さくともキラリ輝く運営を」指針に、諸課題に真摯に向き合っています。
試行錯誤しながら、徐々に改善方向にあると信じています。

【情報公開への取り組み】 社会福祉法人に求められる情報公開の全項目をホームページ等に掲載適時更新。

【適正な会計処理について】 顧問公認会計士のチェックを受け、適正な財務管理に努めました。

予算計画や決算報告等において、要点や方向性を分かりやすく解説しました。

【監査・調査等への対応】 重点項目を継続的にチェックし、記録証書類の確実な更新保管に努めました。

特に財務や法人の状況調査等においては、実態をご理解頂ける様な資料作成や、
情報収集・分析を行い、現状アピールに努めました。

【コスト管理等の取り組み】 費用対効果を考慮した選択を行い、物価高騰や優先度の高い支出に備えました。

【防災救急対策について】 緊急連絡網や自衛組織表など適時更新し、訓練点検も定期的に実施しました。

自然災害等に関しても資料揭示・注意喚起。消防立入検査も支障なし。

事業継続BCP(感染編・災害編)規程や防犯マニュアルも更新して全職員に周知。

(適時各種シミュレーション実施)

社会福祉法人 信 愛 会 は、

カトリックの隣人愛の人間観に基づき、全職員が人間尊重を基本理念とし、
福祉人として老人福祉事業に取り組みます。

「ふれ愛 いき愛 いかし愛 共に喜び 共に生きよう」

をモットーとして、安心してご利用頂けるサービスを提供します。

令和6年度 研修出張等の記録（本部・特養区分）

職種	研修名	研修日	研修場所	主催者
施設長	専門家労務相談(社労士来荘)	4月12日	篠栗荘	介護労働安定センター
	関川ゼミ	4月12日	博多区	北九州施設経営研究会
	北部ブロック施設長会	4月26日	博多区	北部ブロック
	認知症家族の会支部総会・講演会	5月18日	ふくふくプラザ	認知症のひとと家族の会
	日本カトリック老協協	6月7日	東京都	日本カトリック
	介護労働講習 事業主講話	6月28日	天神	介護労働安定センター
	安全運転管理者講習	7月2日	サンレイク船屋	県公安委員会
	カトリック九州支部施設長会	7月4日	ZOOM	カトリック九州支部
	日本カトリック老協協	10月7日	横浜市	日本カトリック
	福岡地区老協協研修・総会	3月3日	福岡市	福岡地区
事務長	専門家労務相談(社労士来荘)	4月12日	篠栗荘	介護労働安定センター
	顧問会計士チェック	6月7日	"	信栄会
	信栄会決算理事会	6月11日	"	"
	福岡法務局・変更登記	6月27日	福岡市	福岡法務局
	特養等入所者の診療扱い講習	11月5日	ズーム	県医師会
	介護労働講習の事業主講話	11月18日	福岡市	介護労働安定センター
	介護労働者の雇用管理責任者講習	11月20日	Eラーニング	厚労省
	公正採用選考研修	12月12日	ズーム	福岡県ハローワーク
	カスタマーハラスメント研修	2月7日	福岡市	県社協
労務	専門家労務相談(社労士来荘)	4月12日	篠栗荘	介護労働安定センター
	労働保険年度更新事務説明会	5月15日	飯塚市	県社会保険協会
	算定基礎事務説明会	6月14日	"	"
	育児・介護休業講習会	7月29日	"	"
	年金セミナー	9月19日	"	"
	年末調整に関する事務講習	11月8日	"	"
	企業における人権担当者向け実践講座	11月28日	オンライン	人権教育普及推進センター
	えせ同和人材セミナー	12月3日	"	"
	働き方改革関連法セミナー	1月29日	飯塚市	県社会保険協会
	生産性向上ビギナーセミナー	7月17日	zoom	厚労省
介保主任	生産性向上体験加算の算定について	8月6日	web	wiseman
	BGP作成における研修	10月26日	web	全国老協協
	BGPオンライン研修	2月10日	web	厚労省
	生産性向上フォーラム	3月12日	web	"
主任相談員	北部相談員会	4月12日	zoom	北部ブロック
	第1回サポーター事業	5月21日	シーメイト	ライフレスキュー福岡地区連絡会
	中学生とのふれあいレクリエーション	7月4日	篠栗荘	篠栗北中生徒
	北部相談員会議	8月16日	みどり苑	北部ブロック
	ふくおかライフレスキューサポーター会議	8月23日	博多区	ふくおかライフレスキュー
	人権擁護・身体拘束廃止	10月10日	ズーム	福岡地区・北部ブロック
	ふくおかライフレスキューサポーター会議	11月19日	志免町	ふくおかライフレスキュー
	苦情解決従事者研修会	2月22日	web	県社協
	町介護サービス従事者連絡会	2月27日	篠栗町	篠栗町福祉課
	北部B防犯研修	3月6日	宗像市	北部ブロック
生活相談員	北部B相談員会議	3月13日	zoom	北部ブロック
	篠栗町介護サービス事業者連絡会	4月25日	篠栗町役場	篠栗町福祉課
	北部相談員会議	8月16日	みどり苑	北部ブロック
	生活相談員研修	12月6日	クローバー	県老協協
	町介護サービス従事者連絡会	2月27日	篠栗町	篠栗町福祉課
	北部B防犯研修	3月6日	宗像市	北部ブロック
管理栄養士	粕屋町地域ケア会議・評価会議	5月14日	粕屋町役場	粕屋町役場
	認知症家族の会支部総会・講演会	5月18日	ふくふくプラザ	認知症のひとと家族の会
	中村学園大学臨地実習受け入れ	6/10～6/14	篠栗荘	中村学園大学
	粕屋町地域ケア会議	7月17日	粕屋町役場	粕屋町役場
	篠栗町地域包括個別ケア会議	7月26日	篠栗町役場	篠栗町福祉課
	粕屋町ケア会議・評価会議	9月19日	"	篠栗町福祉課・会館福祉課
	篠栗町地域包括個別ケア会議	10月25日	"	篠栗町福祉課
	粕屋町地域ケア会議	11月18日	粕屋町役場	粕屋町役場
	給食研修	12月17日	粕屋保健所	粕屋保健所
看護職	喀痰吸引内部研修	4/3・7/17・2/19	篠栗荘	看護師・介護職
	感染症予防研修会	11月29日	粕屋町	粕屋保健所
	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修	2月19日	篠栗荘	看護師・介護職
介護職	喀痰吸引内部研修	4/3・7/17・2/19	篠栗荘	看護師・介護職
	褥瘡予防講習	4月11日	クローバープラザ	県社協
	腰痛予防を考慮したおむつ交換勉強会	7月17日	篠栗荘	ユニ・チャーム
	普通救命講習会	7月18日	中部消防署	粕屋南部地域防災協会
	感染症予防と対処法	7月18日	クローバープラザ	県社協
	起き上がり・立ち上がり支援	7月31日	"	"
	技術向上研修Ⅲ	10月4日	"	県高齢者地域包括ケア推進課
	皮膚清潔と褥瘡予防について	10月16日	篠栗荘	看護師・介護職
	技術向上研修Ⅱ	2024/10/25・11/8・1/23	"	県高齢者地域包括ケア推進課
	技術向上研修Ⅰ	2024/10/28・11/6・12/9	博多区	"
	ノーリフティングケアフォーラム	11月6日	特養ひまわり園	県ノーリフト普及事業
	生産性向上に関する従事者研修	11月18日	博多区	北区老協
	事故安全内部研修・リスクマネジメント	12月18日	篠栗荘	看護師・介護職
	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修	2月19日	篠栗荘	看護師・介護職
主任ケアマネ	篠栗町介護サービス事業者連絡会	4月25日	篠栗町役場	篠栗町福祉課
	集団指導の実施	5月20日	エルガーホール	県介護保険広域連合
	介護報酬改定等に係る研修会	6月20日	博多市民センター	介護支援専門員協会
	篠栗町介護サービス事業者連絡会	6月27日	篠栗町役場	福祉課
	篠栗町地域包括個別ケア会議	8月23日	"	"
	地域包括研修	12月26日	粕屋医師会	新宮町
	町介護サービス従事者連絡会	2月27日	篠栗町	篠栗町福祉課

令和6年度 介護保険事業報告（特養施設・ショートステイ・ケアプラン・デイサービス）

【概要①】 特別養護老人ホーム 篠栗荘（介護老人福祉施設）定員52名

※2名はショート空床特例入所として

年間延利用者数	15953人
月平均延利用者数	1329.4人
月平均利用者数	43.7人
月平均稼働率	84.05%

年間入所者	18名
年間入院者	56名
年間退所者	20名

平均要介護度	3.91
保険者	篠栗町が80%
利用者で負担軽減を受けている方…	80%

平均年齢	87.1歳
------	-------

○ 稼働率は84.05%。過去、令和5年度91.05%と比較して大幅に減少。

6月にコロナウイルスによるクラスター発生もあり、入院者の大幅増加(令和5年度38名→令和6年度56名)がみられ、人手不足による新規入所者の見合わせ等を実施した期間もあった。また、今年度は退所者が例年に比べて多く(令和5年度10名→令和6年度20名)入院した利用者がそのまま退院出来ずに退所してしまう+入院時に死去される方が比率的にも増加(令和5年度26%→令和6年度35%)しており、囑託医である篠栗病院の体制が不安定な時に退所者が増加する傾向にある。相談員を中心とした他部門間との連携を密に行い、まずは利用者の健康状態の維持に努め、入院者数を減らし、稼働率が安定した状態を作る必要がある。更なる工夫を模索していかなければならない。

○ 平均要介護度は前年度3.9と変わらず。

新規入所者内訳が(特例入所を含む)要介護1：2名、要介護3：4名、要介護4：8名、要介護5：4名で全体的に新入所者の介護度が低かった事が原因である。

○ 入所の方は篠栗町の方が80%で相変わらず多い。新規入所申込者も篠栗町の方が多い。

囑託医契約のある篠栗病院や、地域の病院・老人保健施設・ケアマネジャーからの紹介が多い事が一因と考えられる。今後も良い関係性を継続させる事が待機者の減少防止に繋がると思われる。

○ 負担軽減を受けている方は80%

(生活保護受給者 3名、負担限度額2段階 9名、負担限度額3段階① 7名、負担限度額3段階② 13名)

○ 成年後見人制度利用中の方は令和5年度4名であったが、令和6年度は6名と増加。

成年後見人は司法書士だけではなく社会福祉士・弁護士など多方面から入所の相談が増加している。

○ 入所待機者は約15名で、前年度(約35名)より大幅に減少。

入所申込みに来られる方の数は例年と変わらなかったが、今年度は退所者が例年に比べて多く入所申込み後、直ぐに入所して頂く事も増加し、入所待機者が減少。また、入所待機者となっても、入所が不可能な状態になっていたり、他施設に入所したりという状態で、今後も待機者増は望めない為、更に魅力ある施設作りを模索していかなければならない。

【概要②】 併設ショートステイ事業(短期入所生活介護)定員8名

年間延利用者数	1707人
月平均延利用者数	142人
月平均稼働率	58.46%
1日平均利用者数	4.68人

要支援・要介護状況

要支援1	1.5%
要支援2	0.5%
要介護1	36.1%
要介護2	37%
要介護3	17%
要介護5	1.9%
要介護4	6%
要介護5	1.9%

稼働率は58.46%。令和5年度57.65%と比較して増加。

しかし、過去10年の平均稼働率(67.5%)と比べると低く、入所稼働率と同様にコロナ＋人手不足による新規利用者の見合わせ等を実施した事や、レギュラーで利用していた方が、死去・入院・他施設への入所等で利用中止となり、代わりの方が直ぐに見つからなかった事(周辺事業者が増加の為)が稼働率伸び悩みの原因である。

今後もしばらくは新型コロナウイルスの影響は続くと思われるため、レギュラーの方の確保をしていかなければならない。又、感染症の予防にも力を入れて行かなければならない。

※更に魅力ある施設作りをして、アピールしていかなければならない。

【各部門要旨】 介護・看護・栄養部門報告

※介護・看護・栄養・相談・事務の5部門が意見交換し、連携強化を図り、統一したサービスの提供に努めた。

基本的介護の充実
感染症・褥瘡予防
事故防止
身体拘束廃止
高齢者虐待防止



各種委員会活動の充実
利用者の健康増進
ケアプラン・栄養ケアマネジメントの充実
家族との連携強化
より良い接遇を意識

※会議を充実させ職員間の連携促進を図った。

- ・職員全体会議を偶数月に実施し、各委員会からの活動報告と必要事項の説明・伝達＋研修概要の報告＋施設全体の問題点、改善点を話し合う様にした。職員全体会議は伝達ではなく、話し合いの場として、全員が意見を言い合える様な雰囲気作りを行った。
- ・多職種代表会議は施設長以下、各部門の代表者が参加し、施設全体の問題点、改善点、方向性を話し合い、各種会議・委員会等へ説明・伝達を行った。
- ・フロア会議を奇数月に実施し、フロア内における連絡事項の確認、問題点等について話し合う様にした。フロア間の意思疎通が困難な場合は多職種代表会議を活用し、意見交換＋連携強化を図るようにする。

※利用者満足の上に常に配慮し、施設として提供する基本サービスレベルの向上を図った。

- ・利用者の雰囲気は職員の接遇の鏡という事を意識した接遇を心掛け、心情に可能な限り寄り添える様に普段からコミュニケーションを大切にしたり。
- ・利用者自身からの要望だけでなく、要望の少ない利用者への対応等にも配慮していた。
- ・「その人らしさ」を尊重し、利用者に安心・安全に過ごして頂ける様な生活空間作りに努めた。
- ・職員目線の仕事ではなく、利用者目線のサービスを目指し、実行していった。

※ **ケアプラン・栄養ケアマネジメントに沿ったチームケアを推進した。**

- ・利用者個別のケアプラン・栄養ケアマネジメントに沿って、適正なサービスの提供を実施した。
- ・栄養ケアマネジメントに沿った食事を提供する事で利用者の健康増進に努めた。
- ・ケアプラン実施状況のこまめな記録・共有化に努め、評価・改善・見直しへと繋げる事で課題を評価・分析し、真のニーズの追究に努めた。

※ 施設機能を有効に活用できる様に、環境整備を充実させた。

- ・**環境整備とは『4S』(整理・整頓・清掃・清潔)の徹底である事**を意識し、実行していった。
- ・清潔で快適な居住空間は、利用者・職員ともに安全で快適な空間となる事を意識し、利用者個々に合った居室のレイアウトを検討し、過ごしやすい空間作りを目指した。

※ 新型コロナウイルス感染症への対応の為に、従来の感染症対策を徹底強化した。

- ・**令和6年6月にクラスターが発生。入所者20名・職員15名に感染。**
前年度までのクラスター対応経験を活かし、スタンダードプリコーション(感染症に対する標準予防策)を意識し、熱発者が出た際はすぐに感染対策を行っていたが、**昨年度より感染者数が増加した。**
- ・**「疑わしい症状には徹底的に対応する」を実践し、**看護と嘱託医契約のある篠栗病院が連携。入院や隔離等による拡散防止を図った。
- ・感染症対応に必要な知識を得る為、**施設内研修の強化(ガウンテクニック実習等)**を行った。
- ・家族への注意喚起を適宜報告し、感染者発生状況に応じて、面会の制限を実施。
面会は玄関ロビーに限定し、予約制としている。
- ・ボランティア、実習等への協力要請。
(玄関先での手指洗浄・消毒の徹底、体温測定と有事での出入り制限の徹底)
- ・職員は毎日出勤時に検温を行い、37.0℃以上の熱がある場合には、状況に応じ、通院・自宅待機等の対応を行った。就業時にはマスク着用と手指洗浄・消毒の徹底を継続した。

※ **行事計画に基づき、多職種参加の企画会議を開催し、施設全体で行事を盛り上げていった。**

- ・**誕生会・喫茶・デザートバイキング・焼き芋会等の**行事はおやつを食べて頂くというだけの行事にはせず利用者に雰囲気も楽しんで頂くという意識を持って実施した。
- ・感染状況をみながら**花祭り、敬老会、秋祭り、クリスマス会、新年の集い、節分の豆まき、桜花見**など充実した行事を実施することが出来た。
- ・各行事は写真を撮り、**行事報告書として玄関ロビーに掲示する**事で家族面会時や見学者来訪時に見て頂く様にしている。

実施月	行事内容	行事食内容
4月	花祭り・誕生会	春のお弁当・お楽しみ献立・花祭りセレクト和菓子・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
5月	誕生会	端午の節句・お楽しみ献立・おやつバイキング・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
6月	誕生会	季節御膳・お楽しみ献立・おやつ喫茶・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
7月	七夕・スイカ割り・誕生会	七夕そうめん・土用丑の日・スイカ割り・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
8月	盆供養・誕生会	季節御膳・お楽しみ献立・おやつバイキング・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
9月	敬老会・彼岸法要・誕生会	敬老会お祝い御膳・彼岸法要(秋のお彼岸)おはぎ・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
10月	焼き芋会・交歓大会・誕生会	秋のお弁当・ハロウィン御膳・焼き芋会・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
11月	秋祭り・焼き芋会・誕生会	秋祭り・お楽しみ献立・焼き芋会・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
12月	クリスマス・誕生会	クリスマス・冬至・年越しそば・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
1月	新年祝賀会・誕生会	お正月おせち・春の七草・鏡開き・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
2月	節分豆まき・誕生会	節分巻き寿司・バレンタインデー・おやつチョコフォンデュ・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ
3月	桜花見・ひな祭り・彼岸法要・誕生会	ひな祭り・お楽しみ献立・彼岸法要(春のお彼岸)おはぎ・誕生日ババロアケーキ・お楽しみおやつ

- ・今年度は例年通りの行事や外出を実施する事が出来た。
今後も状況を見ながら適宜、行事や外出を実施していきたい。
- ・毎日の習慣として午前11:00から全館にラジオ体操を流し、一緒に体操をして頂くことで少しでも楽しみや生活にメリハリを持って頂けるようにしている。

【各委員会要旨】 各種委員会の活動報告

口腔衛生管理委員会

- ①食事摂取量表の活用し、利用者の食事状況把握・周知の徹底を行う
 - ・多職種参加の栄養会議、栄養ケア、ケースカンファレンスを活用し情報共有が出来ており今後もより良いサービスの提供に繋げていきたい。
- ②口腔衛生管理の取り組みを継続する
 - ・口腔ケアについては協力歯科医院の歯科衛生士より指導を受け、適正に実施している。
今後も各階の担当利用者だけを把握するのではなく、職員全体で把握出来る様にしていく。
- ③各部署との報告・連絡・相談を徹底する
 - ・各部署、栄養士、リーダー、看護師への連携を取れるように努め、情報共有が出来ていた。
今後も更なる連携強化を図り、報告・連絡・相談を密に実施していく。
- ④口腔ケア物品の管理の徹底を行う
 - ・各利用者の物品は衛生面も含め、管理出来ていた。今後も管理体制を確認＋把握に努める。

入浴・清潔ケア向上委員会

- ①入浴スケジュール・入浴形態について色々な意見を反映出来るようにする。また、職員全員が把握出来るように決定事項は全体周知を徹底する。
 - ・フロア別の入浴を実施して、当初は様々な意見が出ていたが、その後、調整されていった。
今後も状況把握を行いながら様々な意見を取り入れ、フロア別の入浴形態を継続していく。
- ②入浴機器や物品の管理・記録の徹底、速やかな報告を心掛ける
 - ・新しい特浴機械(シャワードーム式)を導入する為、他施設への見学なども行い、密な協議を関連部署で実施した。新機器導入後も特に不備も無く使用が出来ている。
 - ・旧機器の故障や不備があった場合、速やかに職員それぞれが報告出来ており、迅速な対応に繋がった。ただし、使用物品の不足に気付く職員が少なく、不備が見られる場面もあった。
今後の課題でもある。

排泄ケア向上委員会

- ①看護部門との連携を強化について
 - ・臀部や陰部など皮膚異常がみられた際は直ぐに確認してもらえる様、看護と連携を行った。
入浴後の介護(軟膏塗布、衣類着用など)に看護が補助として入ってもらう事が出来た為、処置もスムーズに行う事が出来ていた。排泄記録の徹底を行っていた。
- ②物品の管理、検討を行う
 - ・利用者の心身状況により使用するパットが定まらない時もあったが、その都度、職員に聞き取りを行い利用者に合ったものを業者へ伝えて調整を行い提供出来る様になっていた。
- ③排泄ケアを職員全体が周知し、統一したケアを行う
 - ・尿路感染症の利用者が増加してきた事もあり、原因追及の為、オムツメーカー(ユニチャーム・アドバイザー)による内部講習を実施。多数の職員が参加。今後も定期的の実施予定。

感染症・褥瘡防止委員会

- ①感染症防止について
 - ・6月にクラスター発生した際には、事業継続BCP規程に沿って感染対策を実施。
多職種と連携出来た事で、感染ゾーン指定・入所者隔離までスムーズに実施している。
1階と2階の職員往来禁止・入浴中止・食事1日2食提供に変更等も他部門、他委員会と連携し、協力フォロー体制を整える事が出来た。終息後にアンケート調査を実施。アンケート結果を反映した感染症対策マニュアルの見直しを行い、今後も感染予防と拡散を図って行く。
 - ・4S(整理・整頓・清掃・清潔)に基づき、居室管理・環境整備・リネン類管理は徹底出来ている。

・フロア内換気・マスク着用等は今後も継続して行い、感染者を出さない努力をしていく。

②褥瘡防止について

- ・毎月皮膚トラブルは数名あり。早期発見・速やかな処置により大きな皮膚トラブルにならずに済んでいる方もいるが、身体状態等により皮膚状態が悪化する方も少数ながら存在している。食事や栄養面、皮膚清潔等において他部門＋他委員会と連携する事で重症化することが無いように努めていく。
- ・褥瘡防止において他部門＋他委員会との連携をしっかりと取る事で協力体制が確立。

事故防止委員会

①ヒヤリハットの活用について

- ・ヒヤリハットを活用し、危険予測、対策を実行されていた。**ヒヤリハット報告が事故を防ぐ為の気づきに繋がる為、重要である事を委員会として周知していきたい。**

②事故報告書の活用について

- ・事故報告書をただ書くだけに終わるのではなく、全員に周知出来る様に介護記録にも記載するようにしたかったが、介護記録記載が十分に出来てなかった。介護方法の改善や家族に対する情報開示の為、より一層、取り組んでいく。
- ・事故報告書とは別に皮膚剥離や皮下出血の発生時のみに記入を行う皮膚剥離・皮下出血確認書は周知出来ており、事故の再発予防の為、活用している。

③事故防止(安全な介護を心がける為)の環境作りを目指して行く。

- ・事故防止委員会が中心となり、**緊急時や事故発生時の対応例をわかりやすく説明する研修を計画・実施した。**
- ・事故報告書は「**注意喚起、再発防止、利用者が安全に過ごして頂く為のものである**」という事を職員全体に伝達し、今後も報告書の重要性を改めて伝える事で周知徹底を進めていく。

虐待拘束廃止委員会

①身体拘束ゼロに向けて

- ・身体拘束の適正化のための指針に基づき、原則として身体拘束は行わないが、生命・身体の保護の目的で、**現在1名の方が身体拘束の対象となっている。**
利用者の心身の状態を見ながら条件を満たす事が出来れば直ちに拘束解除を行っていく。
- ・今後も緊急やむを得ない場合は指針に沿った手順(虐待拘束廃止委員会による検討、ご家族等への説明・同意、拘束の有効性の再検討、経過記録の保管)を徹底し拘束に踏み切る。

②物品の管理、検討について

- ・身体拘束時に使用する物品やセンサーマットの使用状況＋使用時の記録に関しては記入漏れも無く実施出来ている。
- ・センサーマット使用が妥当な方・不使用が妥当な方の判断基準を事故防止委員会と検討し、設置解除も含めた対応を行う事が出来た。引き続き適切な対応を心掛けていく。

③虐待防止について

- ・**今年度は2回の研修会を実施。虐待や身体拘束に関して知識を高める事が出来ている。**
また、研修会后にアンケート(虐待の芽チェックリスト)を配布し虐待予防への意識を高める事が出来ている。
- ・**虐待防止に向けた月間テーマを作成・掲示。目標達成度についてアンケート集計を実施。**
どれだけ出来たかを振り替り、次回テーマに向けて意識を高める事が出来た。職員全員がテーマの目標を達成出来る様に取り組んでいきたい。

※虐待や身体拘束廃止に関しては、介護保険報酬改定で更に厳しくなっていく為、外部研修参加や職員の声を聞く機会を定期的に作り、虐待や身体拘束に関する知識を充実させる必要がある。

安全対策委員会

①吸引実施記録について

- ・喀痰吸引を実施した際の記録を個人経過記録・吸引実施記録・特定行為実施記録に記入する事を前半は高く意識していたが、段々と伝達不十分になり特定行為実施記録について記録抜けがあった。周知徹底に努めたい。

②物品管理について

- ・吸引機に番号を付け、設置場所の表を作成。どの吸引機がどこにあるか明確になりスムーズに準備する様にしていたが、途中より設置場所の確認や表の更新が不十分になってしまった感あり。周知徹底に努めたい。

③内部研修の活用について

- ・ 吸引実施研修において看護師が吸引実施する際、介護職員にどのようにサポートして欲しいかという内容の指導も行った。また、**夜間想定心肺蘇生の実地研修の流れの中に喀痰吸引研修も織り込む試み**も行った。しかし、実際に看護師が吸引する際、積極的にサポートしようとする意識が薄い様に感じる。今後も指導が必要と思われる。

研修実施

実施月	担当者	研修内容
4月	施設長＋事務長＋主任相談員 安全対策委員会	・新年度事業計画 方針説明 ・特定行為実地研修
5月	防火管理者	・非常時行動確認訓練 自動通報装置作動訓練
6月	感染症・褥瘡防止委員会	・コロナクラスター発生時の振り返り (アンケート実施→マニュアルに追記検討)
7月	排泄ケア向上委員会 (外部講師:ユニ・チャームアドバイザー) 安全対策委員会	・排泄ケアの基礎について講義 ・実際の排泄製品の特長と性能、有効利用についての説明と実技 ・特定行為実地研修
8月	虐待拘束廃止委員会＋主任相談員 安全対策委員会	人権擁護研修(身体拘束廃止・高齢者虐待防止) 特定行為実地研修
9月	事故防止委員会＋生活相談員 入浴清潔ケア向上委員会 (生活相談員＋介護リーダー等同行) 防火管理者＋管理栄養士	・リスクマネジメント研修(緊急時の対応) ・新特浴機(シャワードーム式)の他施設見学 (メディケア癒し有田四番館にて) ・BCP関連訓練1回目(非常食提供訓練)
10月	事故防止委員会＋生活相談員 感染症・褥瘡防止委員会 防火管理者	・リスクマネジメント研修(緊急時の対応) ・褥瘡予防実地研修 ・夜間想定通報及び避難訓練 ・初期消火訓練
11月	感染症・褥瘡防止委員会	・感染症対策研修 ・ガウンテクニック実地研修
12月	事故防止委員会＋生活相談員 安全対策委員会 入浴清潔ケア向上委員会	・リスクマネジメント研修(緊急時の対応) ・特定行為実地研修 ・新規特浴機械導入後の説明
1月	防火管理者	・非常時行動確認訓練 ・自動通報装置作動訓練
2月	虐待拘束廃止委員会＋生活相談員 安全対策委員会	・人権擁護研修(身体拘束廃止・高齢者虐待防止) ・特定行為実地研修
3月	防火管理者(平川電設保守立合い)	・BCP関連訓練2回目(非常発電装置確認訓練)

※10年程前より、改めて人財育成による再構築を図り、新入職員の初期教育や在籍職員の内外専門研修参加促進に取り組んでいる。

業務分担・省力化対策

- ・特別支援学校の卒業生1名が非常勤で介助員(清掃業務)として順調に勤続。
- ・人手不足感のある介護職の負担軽減の為、シニアパートスタッフ等に介助(清掃・洗濯等)の業務分担を実施。月1回は、ふれあい会ボランティア(シーツ交換)を受入れ。

利用者の食事状況報告 令和7年3月31日現在

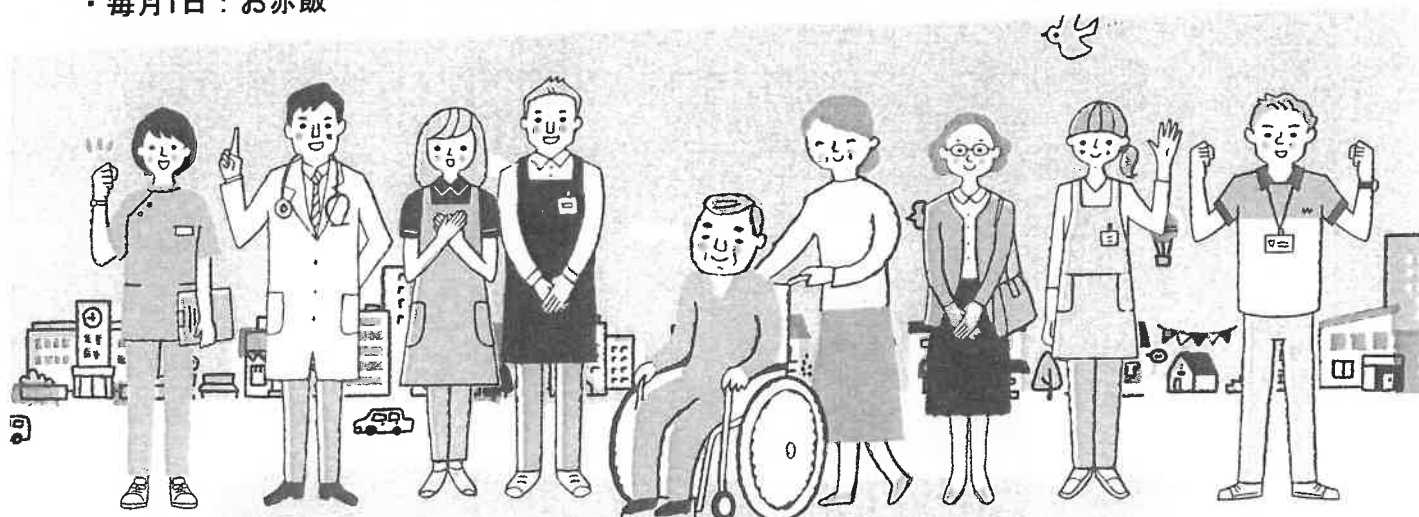
○ 栄養ケアマネジメント状況

低栄養リスクレベルの判定状況 高リスク 2名・中リスク 8名・低リスク 38名
 栄養ケアマネジメント実施状況 高リスク月2回・中リスク月1回・低リスク 3ヶ月に1回
 経口摂取以外の方の状況 胃ろう造設者 1名

○ 行事食実施状況

実施月	昼食		おやつ	
4月	春の弁当	お楽しみ献立 (サンドイッチ)	花祭り (セレクト和菓子)	ティラミス風
5月	端午の節句	お楽しみ献立 (助六寿司)	おやつバイキング	お好み焼き
6月	季節御膳	お楽しみ献立 (天津飯)	鈴カステラ作り	フレンチトースト
7月	七夕そうめん	土用の丑	すいか割り	和風ミニパフェ
8月	季節御膳	お楽しみ献立 (ハンバーグプレート)	おやつバイキング	オムレットケーキ
9月	敬老のお祝い御膳		秋のお彼岸(おはぎ)	スイートポテト
10月	秋のお弁当	ハロウィン御膳	焼き芋会	モンブラン
11月	秋祭り 屋台形式 (握り寿司、はし巻き、カレー等)	お楽しみ献立 (寿司と天ぷら)	焼き芋	プリンアラモード
12月	クリスマス おでんバイキング	冬至 /年越しそば		ブルーベリーマフィン
1月	おせち料理	春の七草	鏡開き(ぜんざい)	チョコミニパフェ
2月	節分	バレンタインデー	生クリームどら焼き	チョコフォンデュ
3月	ひな祭り	お楽しみ献立 (ふわ卵そえキーマカレー)	春のお彼岸(ぼた餅)	パンプディング

・毎月1日：お赤飯



特別養護老人ホーム

篠栗荘

(介護老人福祉施設 介護保険事業所番号 4073900062)

分野名 介護老人福祉施設

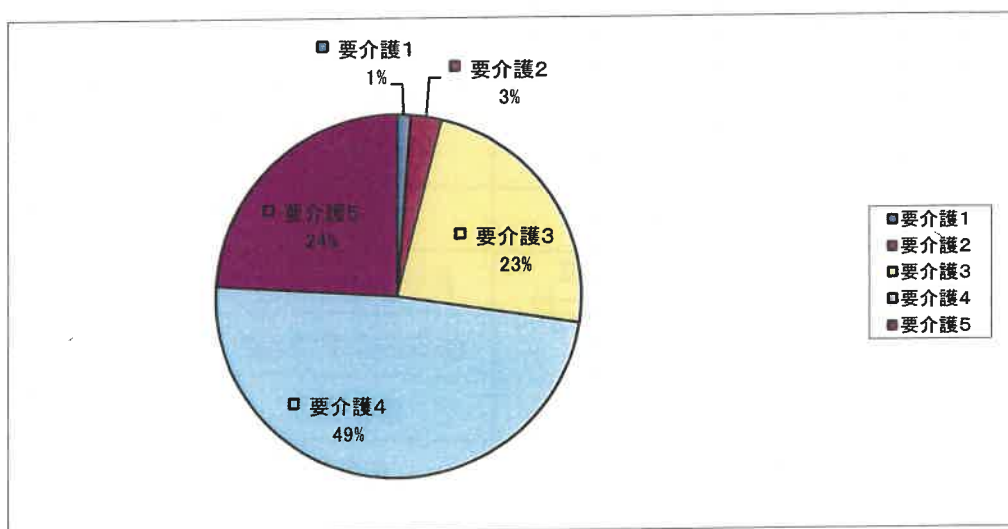
施設長 柳 竜一

【特養・篠栗荘】令和6年度

(定員50名+ショート空床利用の特例入所2名)

① 年間要介護度別利用人員

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0%
要介護1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	7	1.2%
要介護2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	1	1	1	16	2.7%
要介護3	13	12	12	11	9	9	10	11	11	13	13	13	137	23.5%
要介護4	25	25	25	22	22	23	24	23	25	24	22	23	283	48.5%
要介護5	11	11	11	12	14	11	11	11	12	12	12	12	140	24.0%
合計	51	50	50	47	48	45	47	47	49	50	49	50	583	100.0%
平均介護度	3.88	3.90	3.90	3.94	3.96	3.93	3.91	3.89	3.96	3.94	3.88	3.88	3.91	



② 月別利用日数

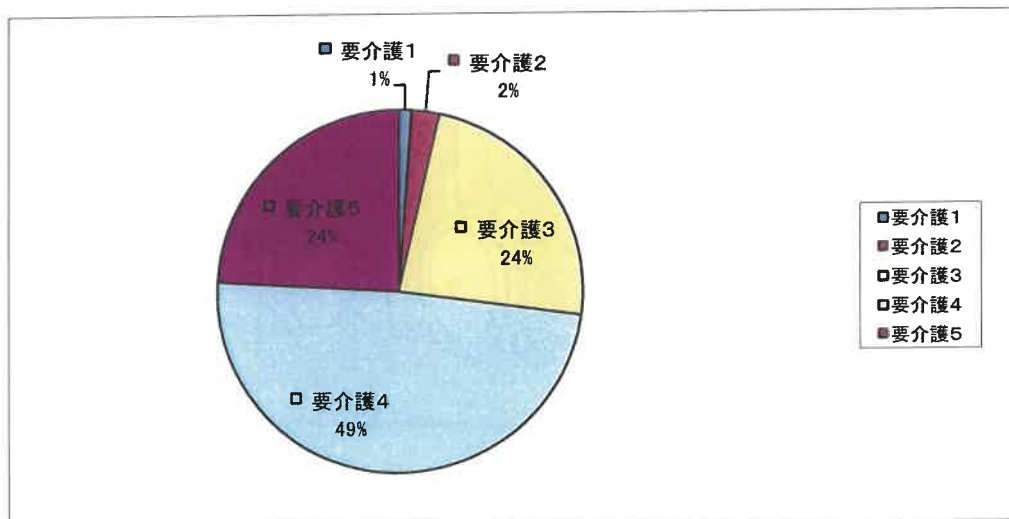
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
要介護1	0	0	0	0	26	30	31	30	31	0	0	29	177	1.1%
要介護2	38	31	30	59	57	30	31	30	0	31	28	31	396	2.5%
要介護3	346	345	308	322	261	252	293	282	296	342	338	382	3767	23.6%
要介護4	701	721	601	549	666	613	663	673	696	648	600	643	7774	48.7%
要介護5	329	321	249	313	341	320	318	330	358	325	323	312	3839	24.1%
合計	1414	1418	1188	1243	1351	1245	1336	1345	1381	1346	1289	1397	15953	100.0%
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
平均	47.13	45.74	39.60	40.10	43.58	41.50	43.10	44.83	44.55	43.42	46.04	45.06	43.71	

月平均

1,329.4人

ベッド稼働率

84.05%



③ 新規入所状況													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1					1							1	2
要介護2													0
要介護3					1		1	1		1			4
要介護4	1	1					2	1	2		1		8
要介護5		1		2							1		4
合計	1	2	0	2	2	0	3	2	2	1	2	1	18

④ 退所状況													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1													0
要介護2													0
要介護3	1		1										2
要介護4		1	3	2			3			2		2	13
要介護5		1			3					1			5
合計	1	2	4	2	3	0	3	0	0	3	0	2	20

⑤ 入院状況 (延べ日数)													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1													0
要介護2	22	31	30	3	5								91
要介護3	34	23	49	18	12	18	15	40	43	31	26	21	330
要介護4	27	51	133	125	16	77	50	4	50	52	28	48	661
要介護5	1	14	51	51	44	10	23		14	32	13	60	313
本年度合計	84	119	263	197	77	105	88	44	107	115	67	129	1395
前年度数値	31	63	94	239	118	125	72	77	32	21	35	87	994
													前年比
													140.34%

入所者 (3月31日付)

	男	女	合計	割合
40-64	2	0	2	4.1%
65-69	0	0	0	0.0%
70-74	1	1	2	4.1%
75-79	1	3	4	8.1%
80-84	0	6	6	12.2%
85-89	0	12	12	24.5%
90-94	2	14	16	32.7%
95以上	0	7	7	14.3%
合 計	6	43	49	100%

※全体平均年齢・・・87.1歳

※男性平均年齢・・・75.8歳

※女性平均年齢・・・88.7歳

保険者内訳 (3月31日付)

保険者	人数	割合
篠栗町	39	80%
粕屋町	1	2%
福岡市	2	4%
飯塚市	1	2%
嘉麻市	1	2%
宮若市	1	2%
久山町	1	2%
行橋市	1	2%
長崎市	1	2%

要介護度 (3月31日付)

要介護度			
	男	女	合計
要介護度1	0	1	1
要介護度2	0	1	1
要介護度3	2	11	13
要介護度4	3	19	22
要介護度5	1	11	12
計	6	43	49

※平均要介護度:3.8

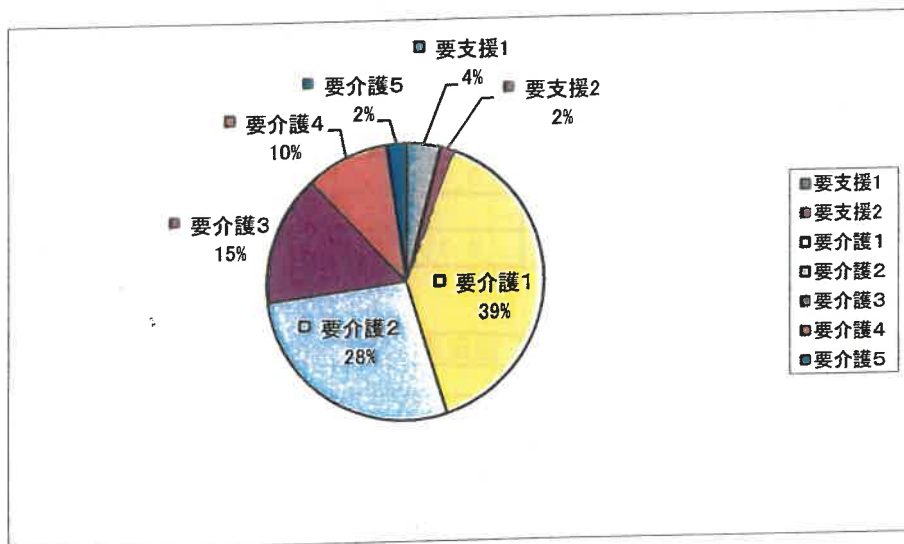
所得段階等 (3月31日付)

所得段階	人数	割合
生活保護	3	(生活保護の方と同じ)
1段階	3	
2段階	9	
3段階①	7	
3段階②	13	
4段階	16	
4段階(2割負担)	1	
4段階(3割負担)	0	
合計	49	

【併設短期入所(ショートステイ)】令和6年度 定員10名-2名分は施設特例入所:実質8名

① 月別利用人員

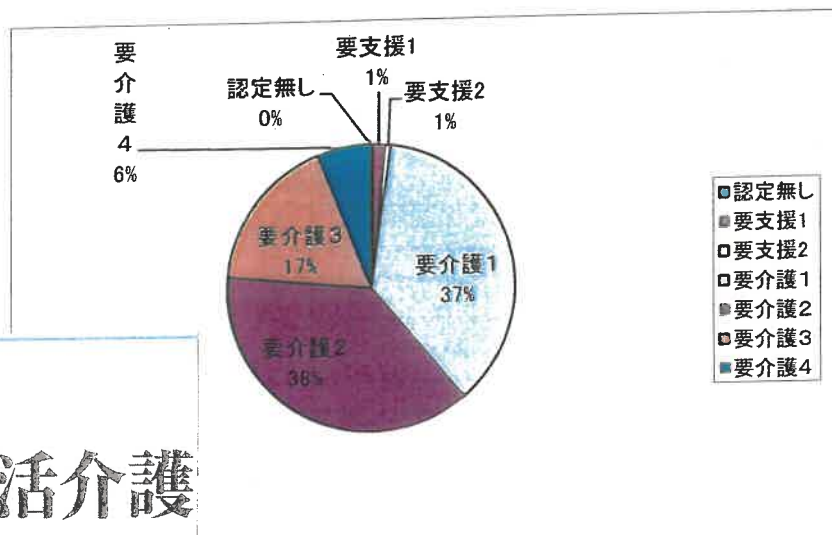
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
介護保険														
要支援1	1	2			1	2				1			7	4.0%
要支援2						1					1	1	3	1.7%
要介護1	7	8	5	6	8	6	4	5	6	4	6	5	70	39.5%
要介護2	4	3	2	4	3	3	4	4	6	4	6	6	49	27.7%
要介護3	2	2	2	3	2	2	2	2	2	3	3	2	27	15.3%
要介護4				1	2	2	2	1	2	2	2	3	17	9.6%
要介護5	1	1	1							1			4	2.3%
合計	15	16	10	14	16	16	12	12	16	15	18	17	177	100.0%
平均介護度	1.8	1.6	2.0	1.9	1.8	1.7	2.2	1.9	2.0	2.3	2.0	2.1	1.9	



② 月別利用日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
介護保険														
認定無し										3			3	1.5%
要支援1	8	6			3	5				3		5	25	0.5%
要支援2						2					2	5	9	0.5%
要介護1	82	87	59	65	47	44	39	38	24	30	45	57	617	36.1%
要介護2	64	60	10	43	46	31	50	47	87	60	66	67	631	37.0%
要介護3	14	18	51	53	23	16	16	16	21	28	27	8	291	17.0%
要介護4				6	20	13	9	10	12	7	7	18	102	6.0%
要介護5	8	7	2							15			32	1.9%
合計	176	178	122	167	139	111	114	111	144	143	147	155	1707	100.0%
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
平均	5.87	5.74	4.07	5.39	4.48	3.70	3.68	3.70	4.65	4.61	5.25	5.00	4.68	

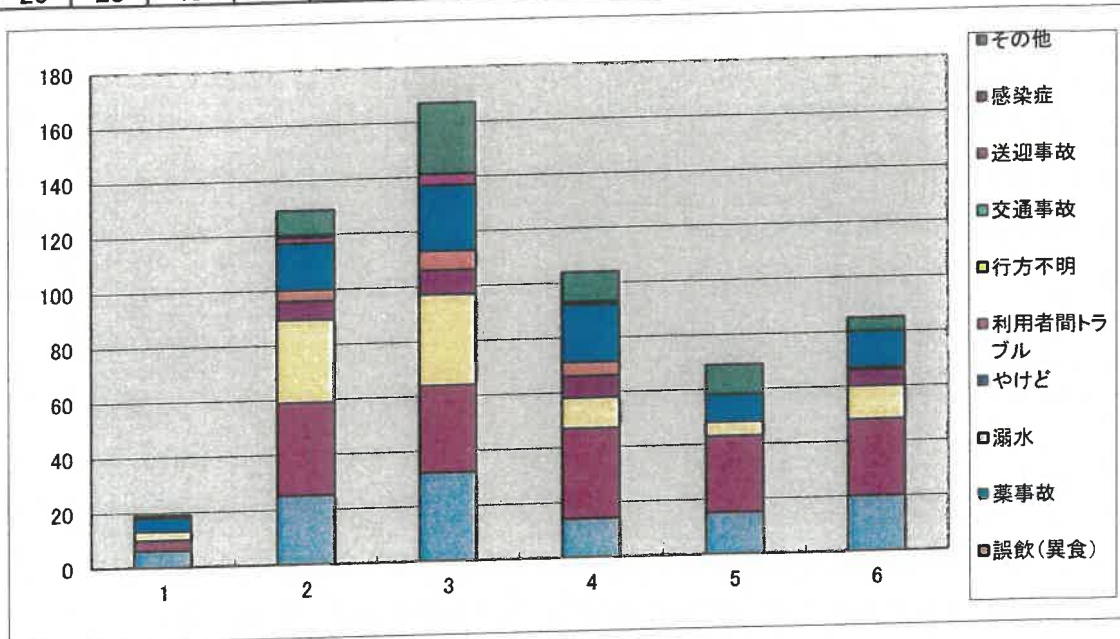
月平均 142.25 稼働率 58.46%



篠栗荘併設
短期入所生活介護

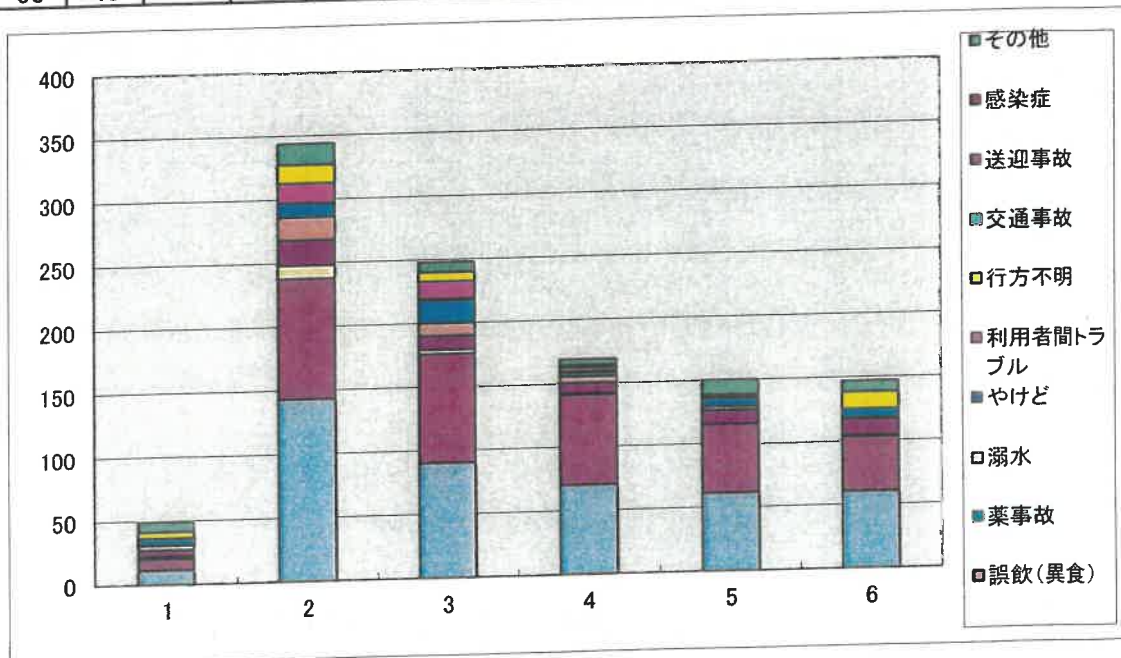
ショートステイ事業・定員10名

特養・短期入所事故報告書件数

[illegible]

ヒヤリハット報告書件数

年度	転倒	転落 座り込み	挟み込み 皮膚剥離	打ち付け	衝突	誤嚥・誤配	義歯関係	誤飲（異食）	薬事故	溺水	やけど	利用者間 トラブル	行方不明	交通事故	送迎事故	感染症	その他	合計
1	11	9	2	0	5	4	5	0	0	0	5	0	0	0	8	49		
2	143	95	10	0	20	18	11	0	0	16	14	0	0	0	17	344		
3	90	86	3	0	11	10	18	0	1	14	7	0	0	0	8	248		
4	70	71	1	0	8	5	3	0	1	3	2	0	0	0	5	169		
5	61	54	0	0	11	3	6	0	0	1	2	0	0	0	12	150		
6	60	43	1	0	13	1	7	0	0	0	13	0	0	0	9	147		



○ 居宅介護支援事業〔篠栗荘ケアプランセンター〕

(介護保険事業所番号 4073900054)

(実務について)

契約者 32 名 令和 7 年 3 月末現在
令和 6 年度 新規利用者 14 名
利用終了者 8 名 (入所 4 名、入院 4 名)

分野名 居宅介護支援事業

主任ケアマネ 岩橋慈子

令和 6 年度の新規利用者の内訳は、地域包括からの依頼が 3 件、他の居宅介護支援事業所の介護支援専門員退職による担当依頼が 8 名、新規利用者が直接相談で契約となったケースは 3 件であった。

新規のご契約者について、町内他居宅事業所の介護支援専門員の退職が相次ぎ（求人出しても後任が来られないとのことで 3 月末までで合計 3 名の介護支援専門員から依頼）それに伴う依頼が多数あった（令和 7 年 4 月以降も多数あり）。町内の介護支援専門員が少なく今後も更新や区分変更などで介護予防が要介護に変更になった際や、直接の依頼が増えることが予想される。新規で担当となったご本人様ご家族様が篠栗荘デイサービス、ショートステイを希望され、その後継続してサービスを利用されている。篠栗荘デイサービス、ショートステイが利用者様、ご家族に献身的に柔軟にかつ的確に対応されているため、社会的に問題を抱えた方や重度な方でも施設に入所することなくご本人やご家族が望む在宅生活を継続できていると好評で、感謝を述べられる方が多数である。

利用中止者については、本人やご家族が希望され篠栗荘に入所となった方や、病状が悪化し入院された方等である。ショートステイを利用され気に入られ、その後篠栗荘の入所を希望されて入所になられている。入院の内容は疾患の悪化やご自宅でご家族がそばを離れた間に転倒されたことである。リハビリ後自宅に戻られサービスを再開されたケースもある。

介護力不足やニーズの多様化、家族関係の複雑化などで、虐待等処遇困難ケースが増えている。新規の利用者の多くは、独居や高齢者夫婦世帯である。その上、子供が遠方にいることや、疎遠であることが多い。介護家族も多様化し介護サービスや、介護そのものの理解が乏しく、また経済的な問題を抱えているケースなどの対応の際、社会資源が少なく、地域包括ケアの構築がまだ不十分で、利用できるインフォーマルサービスがなく介護保険サービス外の問題であっても介護支援専門員が調整、支援を行わざるをえない状況で負担が大きくなっている。各サービスから栄養状態、服薬状態、健康状態等の問題を介護支援専門員に報告の義務があるが、問題解決のできる家族がいない場合は介護支援専門員が対応を行うことがある。介護支援専門員として利用者を介護保険外でも地域で生活できる様、調整し支えるという介護保険外の役割もあるため、介護保険外の手続き支援等も、本人、家族、行政から依頼され行うことがある。権利を主張する家族の過度な要求からの介護支援専門員や事業所スタッフに対するハラスメントも見られたが、相談窓口はあるものの受け入れ対応機関なく介護支援専門員が対応するケースが多い。業務の範囲が明確でないため年々シャドーワークが増え負担が増えており、全国的に介護支援専門員が減少している。

対応困難事例が増加しており本人、家族、サービス事業所、医療機関等と何度も調整し、モニタリング、アセスメントを行い担当者会議の開催や、ケアプランの作成を新規ケース同様の過程で行う必要がある事例が多い。その都度詳細な記録を行う必要があり不備があると減算の対象となる。法改正に伴うサービスの透明化、公平性を中心に利用者家族へ具体的な説明、同意、記録の追加が必要でケアプランの質も高いものが求められ、業務量が増大している。

要介護者の地域での在宅生活を支えるため、今後も居宅介護支援の業務を継続していく必要がある。今後も適正な運営を行いながら利用者の自立支援を行っていく

(各種サービス利用者について)

デイサービス 12 名 デイケア 3 名 訪問介護名 3 名 福祉用具貸与 14 名
ショートステイ 10 名 訪問看護 6 名 訪問入浴 1 名 (月平均)

○ 通所介護事業(篠栗荘デイサービスセンター)

【年間総括】

令和6年度のデイ利用者の延人数は5686人、昨年は5538人であり、148名の増加でした。前年度に比べ7名増加の28名の新規利用がありました。ただ利用終了の方も20名おられました。**新規利用者の傾向として、要支援の方が約6割を占めており、厳しい状況に変わりありません。長期入院、要介護利用者の施設入所、コロナ感染症による利用人数制限休みも収入減少の要因となっています。**最近の傾向としては、家族関係の希薄化により、関係性が乏しくなった家族が増えているように思われます。就労家族の増加、夫婦のみ世帯や一人暮らし世帯の増加により、緊急時、必要時に連絡をとるのに時間を要するケースも出ています。支払いに関しても、独居や高齢夫婦の為、支払い方法を理解されていなかったり、キーパンソンである家族の来所が遅く、数か月まとめて支払うケースもありました。支払い方法に関しては、今後、現金以外にも振込等、検討の余地があると思われます。支出に関しては、物価高騰の影響を受け、おやつ、消耗品、必要物品等の見直しを行い、優先順位の高い必需品から確保して利用者に提供しました。余暇に関しては、年間を通して外出が可能となった今、花見等、外出する機会を増やすことにより、利用者間の交流や身体機能維持に努めています。**利用者数に関しては、定期的な体験利用者の受入れ、利用日追加、入院者減少等により、増加傾向にあります。次年度の目標として、稼働率向上を意識し、毎月延べ500人超の利用継続を図ります。**

【介護サービス】

食事	「この食事は美味しい!」「弁当ではなくお膳で出てくるのがいいね!」という言葉をよく耳にします。食事残渣も以前に比べ減っているように感じます。周りの方と一緒に食べることが良い意味で刺激になっているようです。高齢者のみ世帯、単独世帯では、栄養不足、栄養の隔たりが懸念される為、バランスの摂れた食事を提供し、今後も健康面をサポートしていきます。
入浴	利用者の身体状況に応じて、一般浴、機械浴での入浴を行いました。また体調によって、シャワー浴の実施、時間をずらしての入浴など柔軟に対応しています。自宅で入るからと入浴されなかった利用者がおられましたが、お友達の誘いで入浴され、継続しての入浴に繋がったこともありましたが、 自宅での入浴が困難な利用者にとって、デイでの安心・安全な入浴の果たす役割は大きいと感じています。
排泄	利用者一人一人に合った声掛けを実施しています。また、利用者の動作等を確認し、必要であれば、トイレへの移動介助を行っています。 頻回にトイレに行かれる利用者に関しては、頻度の観察や排便状況の確認を行い、適宜、家族等に報告すると共に、必要に応じて受診を勧めています。 外出時は、トイレが近くなりやすく、場所も限られる為、トイレ箇所の確認を行い、安心した外出を心がけました。
レクリエーション	外出を多く取り入れ季節に応じた花見に行きました。普段、外出機会の少ない利用者にとっても好評でした。また、12月には同じ敷地内にあるクリエイト篠栗の装飾クリスマスツリーを見に行きました。若い頃に来ていた利用者もあり、懐かしそうにされていました。夏季はデイ館内で、納涼レクを実施したり、アイスクリームを食べたりと夏を満喫されました。 今後も季節感を味わえる企画を実行します。
機能訓練	マスク着用にて、感染予防に配慮しながら体操を行いました。歩行の安定や身体機能維持を目的に、上・下肢運動、筋力向上等に努めました。また、口腔体操、ラジオ体操等を交えながら、在宅生活の継続を念頭にいたサービス提供に努めました。利用者から「ここに来るようになり、元気になった!運動の成果が出ている!」と喜びの声も頂きました。
健康チェック	迎え時の検温チェック、様子観察に努めました。必要があれば、家族から夜間帯の睡眠状況、食事量の確認を実施しました。 8月に、利用者6名、職員2名が新型コロナウイルスに感染した為、利用制限して、感染拡大を防止しました。 その後の感染は見られていません。毎月の体重測定や看護師による日々の観察実施や食事以外でのマスク着用をお願いし、今後も感染予防に努めます。
送迎	運転前のアルコールチェック、体調チェックを行いました。また、安全運転、迷惑駐車防止に努め、交通事故なく送迎を行うことが出来ました。今後も、 危険箇所等の情報共有を図り、事故防止に努めてまいります。

分野名 通所介護事業・総合事業

施設長 柳 竜一

センター長 安福弘美

【地域との交流】

①地域交流 ②ボランティア ③広報	①独居利用者の中には、「買物に行くのが大変！」「夜ご飯どうしよう！」と話される方が多いです。オアシス篠栗館内の売店で、野菜、弁当等を買物することにより、買物弱者となるのを防ぐ効果もあり、在宅支援の一環として提案しています。 ②ハンドマッサージ、入浴後のドライヤー、折り紙等、さまざまなボランティアの協力を受けました。 ③見学依頼やケアマネジャーからの問合せがあれば、適時受入れ、事業概要やサービス・設備等の説明を行いました。
-------------------------	--

【リスクマネジメント】

①ヒヤリハット・事故報告 ②避難訓練	① デイサービス内では、重傷(転倒による骨折等)による事故はありませんでした。ただ、利用日以外に、自宅内外で転倒され、骨折にて入院されたケースが数件みられています。ヒヤリハットでは、ふらつきや歩行不安定者の急な立ち上がり等、転倒のおそれとなる事例がありました。事故報告・ヒヤリハット共に、転倒に結び付く様なケースが多数を占めています。また、迎え時に持ち物の確認不足にから鍵・携帯電話等の所在確認に時間を要したケースや、入浴後の衣類の入れ間違い等のケースもありました。 ②館内の消防訓練に参加するなど、消火器等の確認も定期的に実施。
-----------------------	--

【感染対策】

感染予防の継続	毎月の会議時に感染症等の研修を行い、職員間で情報共有し、理解を深めています。新型コロナウイルスも5類移行となりましたが、基本的な予防措置(マスク着用・手洗い・うがい等)は継続しています。感染発生時には、利用者の隔離及び連絡、二次感染の防止等、速やかに行うよう取り組んでいます。職員自身も、デイ内に感染症等を「持ち込まない」よう注意喚起しています。
---------	---

【高齢者虐待防止】

人間尊厳	利用者にとって「不適切なケア」を行わないよう、声かけ、接遇等、利用者目線にたった支援及び研修を行っており、虐待等はみられていません。今後も利用者一人一人の状況に合わせたケアを行い、職員間のコミュニケーションを円滑にとることにより、早期に虐待等の目を摘む、速やかな対応に努めていきます。
------	--

【個人情報保護】

プライバシー保護の徹底	「利用者基本情報」「ケアプラン」「アセスメント」「介護記録」等、介護現場で使用する記録等は、個人情報にあたる為、新規利用時には必ず、個人情報保護について、利用者及び家族に説明して了承を得ています。また、写真撮影・広報紙への掲載においても事前に撮影・掲載の確認を行うようにしています。職員に関しは、日頃から個人情報保護の徹底を図るよう周知し、原則として、事業所外への情報持出しは禁止としています。
-------------	---

【安全運転】

事故ゼロの継続	利用者の送迎においては、体調確認やシートベルトの着用を徹底し、乗降介助等、一人一人の安全確保に努め、安心・安全な対応が出来るようにしました。職員に関しても、体調管理に努め、体調に不安がある場合、事前に運転交代などの対応をとるようにしています。利用者の一人一人の送迎時間を把握するよう努め、時間にゆとりをもった送迎を心がけています。車の急発進・急停車等、危険な運転を避け、事故を防止しています。
---------	--